

刊夕日二十二月八



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
廣告料 五號十二字 第一行五元 五號  
日曜祭日の翌日休刊  
發行所 東京市丸の内區丸の内三丁目  
電話 六三三〇  
印刷所 東京市丸の内區丸の内三丁目  
電話 六三三〇

### 禪定生活 禪とは何ぞや

眞 繼 雲 山

僕は近頃坐禪をやつてゐるんだなどといふ男がその實年中ジタバタと名利を追ふてゐるのが多い。斯かる妄動は不禪定も甚しい。さういふ男に坐禪とは何ぞやと問へば、坐つて考へることだと答へるかも知れぬがそれは禪でも何でもない。坐はするものであるが、ぜんとは印度直輸入の梵語、謂はゆる漢梵合成といつて支那字と印度字の寄せ集めである。然ればぜん定といふも亦た合成語たるを免かれない。ぜんとは、くわしくはぜん那であり、譯して棄惡、もしくは靜慮の意となる。定の梵語は三昧であるから逆にぜん定を梵譯すれば、ぜん那三昧となる勘定である。

三昧とは譯して定であり一處にあつめて動かぬこと、心の散亂を止むることである。ぜん那はこの定中に入つて思ひはかることをやめることである。息慮疑心の行きついたところは何かといへば無念無想である。台家の止觀といふも、眞言宗の心月輪大圓鏡といふも親鸞聖人の無疑無慮を以て信となすといはれたのも、

結着は同義であつて、そこに到るべき形式方法が止観行であり坐せんである。大づかみに手つ取り早くいへば、妄念妄動の反對がぜん定である。現代人は概ね火事場の泥棒のやうにアタフタとぜん定の生活を續けて、それで五十年を暮らしてゐるのである。ところが實は斯く申す私も過去半生の内そのなかばは、このぜん定の妙法あることを知らず、妄念不ぜんも甚しい生活を營んで來た今にして過去を追送するとあれも無駄、これも無用の妄動であつたことに氣づく實に愚かしい生活であつたこの頃やつとそのもう動生活は廢業し、ひとへにぜん定生活に入ることに改良した。

私のいふぜん定生活とは無益にジタバタしないことである。ぜん定の延長をそのまゝ、實生活に體現することである。ぜんといへばすわることに相違ないが、行もぜん、すわるも亦たぜんで、ぜんは起居動作のすべてにあらねばならぬ。さうあるのがぜん定生活である。名利を逐ふたり、議

員屋稼業に浮身をやつすことを、私はぜん定生活であるとは思はれない。近頃の私は散歩は兎に角として、必ず然るべき要件があるのではない限り減多に先輩や友人を訪問することはない。左様に御機嫌を伺はねば絶交状態になるやうな淺薄な仲ならば、寧ろ成行に委すに如かずである。漫然と他を訪はないのは先様の貴重なる時間を損せざる趣旨にもよる。ところが左様にして偏へに靜寂を望み、讀書執筆に精進せんと期してゐる私のもともなは、時間もつづして歸るのには閉口する。世間には随分ヒトが多い。電話かハガキ一本で結構用は足りるものをワザ／＼大の男がやつて來て、半日つづして歸る。不景氣なやうでも可なり遊んで飯が食へる世の中である。

尤も大いに外出し大いに動く生活のうちにも固よりぜんはある。たゞ現代人には殆んどさうした靜中の動中の靜を認め兼ねるやうだ。

一滴の水を牛が呑めば牛乳となり、毒蛇が飲めば毒素となる。丁度そのやうに聖者、覺者が動けば施しとなり、救濟となるが、もう

念を地體とする凡夫が動けば、もう動となり、貪慾となり易い。自動車で風を切つてゐる人を見るに多くは金か名譽か美人を求めて跳ね廻つてゐる。施しや救済のためには歩いてゐる人は千中に一二もない。ぜん定生活は求むるところなき捨身棄慾の道であるゆゑ、功利を本則とする現代にあつてはそれが決して世間的に成功する所以ではない。罷り間違へば家は

なれ、食をも失ふことがあるかも知れぬが、靜寂は實の相であり、ぜん定はその靜寂に即するのであるから餓死を念想し畏怖する如くんは、それはぜん定の落第点である。生死をはなれ實相に即するを以てぜん定生活の至極とする。私は未だ必ずしも餓死を恐れずとは言はず、たゞ目標をそこにおいて道を修してゐるといふのみである。完

旭硝子株式會社製品  
赤菱印  
板ガラス  
菓子食器  
硝子壺  
其他各種

### 外科 X 光線科

性病科 外科科

平町田町 安齊外科醫院  
電話四七五番

### 松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)  
支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

### 三井質店

各種債券類  
平町四丁目川岸  
電話六〇六番

### 磐城名産 魚問屋

石炭の大特賣  
塊炭 正味十貫目 俵 金貳拾錢  
『品方良ク』『値が安ク』  
『目方ハ正確』デス  
▽トニカク一度...  
使ツテ見テ下サイ  
●配達ハ一俵ヨリ致シマス  
御注文ハ  
電話三七七番  
平驛前 阿部石炭商店

### 金銀高價買入

根本時計店  
平町田町丸新デパート

### 吉田眼科病院

平驛前、電話六八番

月曜言論

平町と運動精神

昨日の郡下青年体育大會に、平町は武道に優勝し得た。雖も一般競技には一點をすらも入れる能はずして全く惨敗した。勝敗はもとより時の運也とは云へ、餘りの腑甲斐なき、實る無慘と云はなければならぬ。

運動精神を尊重すれば、勝敗の數に主きを置くべきでないかも知れぬ、故に例令平町が零敗せりと雖も、今更ら喧嘩終へての棒千切りの悲憤慷慨は爲べきでないからう、されど夫れは、平町が競技に善戦力闘しての後に云ふべきであつて、今回の如き全然不斷の準備を爲さず、出たとこ勝負の漫然たる泥繩式且つ場當りの建て前で競技に臨むが如き熱意の無い遣り方に對しては當てはまらないのである。

吾人はもとより今回の出場選手を攻める氣は毛頭ない、たゞ今回の敗因が平町の運動競技に對する無理解無誠意の暴露である事を悲しむのである。場内の光景を一目しても判る、優勝した内郷村其他の各團からは腰辨當、草鞋掛けの應援隊が續々繰り込んで非常な意氣込みを示して居た、然るにわが平町は地元でありながら、何たる寂寥を極めた事であらう、此の物淋い背影の前に、千兩役者の現れぬ事は理の到然である。

体育運動は体力の優れて居る一部の選手とか、又は運動に特に興味を有つて居る人のみが行つて、多數のものは或ひは傍觀者であり或ひは單なる批評者であり或は全く無關心な者である

様では、体育の健全なる發達を期する事は出来ない、強い者も、弱い者も、老ひも若きも一緒になつて体育精神を旺盛ならしめ、是れが發達向上に精進せねばならぬ。体育のない國は滅亡する。平町の總べての人達

は今回の惨敗に發奮して、他日の大成を期し再び此の苦杯を嘗むる事なき様今後不斷の實行に努力すべきである。

青年團對抗競技に 内郷村優勝す 武道優勝は平町

昨日の高月臺上歡聲溢る

既報石城郡聯合青年團第九回体育大會は昨日午前九時半より警中グラウンドに於て開催選手二百六十七名が

連日の猛練習振りを

偲ばせて赫顔をたらねて堂々入場式を行ふ、先づ君ヶ代を合唱して會長橋本文壽氏が「日頃鍛練したスポーツ精神を飽迄發揮せよ」と激勵する處あり前回の優勝團たる湯本町青年團より優勝旗を返還し審判長小野寛美氏の訓辭あつて百米競技をトツプに

今大會の火蓋は切られたが曇天の上に涼風さへ

加はつてコンディション頗る良く各町村から押掛けた應援團の聲援四邊を壓し高月臺上に時ならぬ盛況を見せた因に戦績は左の如く新記録出し榮ある競技の優勝旗は遂に内郷村青年團にまた武道の優勝カップは平

競技部決勝

- 1 小名濱 草野 野仁 (記録十一秒四)
2 内郷 瀧口今朝吉
3 大浦 坂本 誠
4 植田 渡邊 彌平
5 好間第一 大沼 藏明
△四〇〇米
1 内郷 大谷 岸雄 (記録五十四秒四)
2 大浦 坂本 誠
3 湯本 高萩小十郎
4 小川 田久 虎雄
5 四倉 佐藤 定翁
△千五百米
1 内郷 小貫 新一 (記録四分三十秒六)
2 湯本 佐藤 福藏
3 渡邊 小野初太郎
4 神谷 猪狩 廣太
5 好間第一 泉美 一

武道部決勝

- △八百リレ
1 内郷中井川明 川又多
2 三郎 鈴木武雄 瀧口今朝吉 (記録一分三十八秒八)
2 湯本
3 大浦
△一萬米
1 平窪 關場喜平治 (記録三十六分三十四秒)
2 好間第一 黒須 仲三
3 田人 綠川 徳次
4 玉川 大和田周平
5 好間第二 渡邊 徳三
△走 巾 跳
1 泉 佐藤 兼介 (縣新記録六米七三)
2 小名濱 草野 野仁
3 内郷 川又多三郎
4 大浦 渡邊 美枝
5 草野 山内龜代司
△走 高 跳
△走 高 跳
1 鈴木 武雄 (縣新記録一米八〇A)

武道部決勝

- △柔 道
1 神谷 阿部 克英
2 平 安齊利三郎
3 上遠野 荒川 久
4 飯野 志賀 久
5 赤井北部中村三郎
△剣 道
1 好間第一 加藤 幸一
2 三坂 田子 三郎
3 平 遠藤 秀夫
4 草野 木田 芳重
5 大野 根本 名治
△相 撲
1 豊間 田中芳太郎
2 平 高橋 強
3 豊間 鈴木福太郎
4 内郷 森重 喜
5 泉 吉田朝次郎
△總 得 點
平一 豊間八 好間、神谷各五 三坂四 上遠野三 飯野、内郷、草野

失業後の窮状を述べて

救済工事懇請

平上水道擴張工事に従事し工事完了後失業した労働者百餘名に依つて組織された労働平和會の役員丸山春造外十一名は本日午前十時頃平町役場に伏見町長を訪ね失業後の窮状を述べて救済工事を起して貰ひ度いと懇請する處があつた

農試分場大意氣込み

第一回の栽培好成绩 日正午試食會を催すと 磐女庭球練習 磐城高等女學校庭球部にては縣下女子中等學校体育大會か接近したので明日より八日間係教諭コーチの下に猛練習を行ふと

季節御料理

- 柳川一人前 金二十五錢
うな井 金三十五錢
蒲焼 金五十錢
右大々勉強出前迅速
◎滋養豊富!風味美味!
是非一度御試食を...
大浦焼・鳥料理
壽司・折詰仕出し
魚 榮
田町(電話四二四番)

# 養父殺し犯人は

## 山一番の力持

### 舊盆十六日に求めた

### 八圓餘の短刀が兇器

### 武術大會

#### けふ打合せ

既報石城郡赤井村の殺人事件は加害者東白河郡近津村生れ當時赤井村字西小川居住福島炭坑坑夫和田信一(一)が同村農館福太郎の娘マサ(二)と昭和六年春好いた。

### 同志で

結婚した處養父の福太郎は和田を極端に氣嫌ひして本月初め和田が炭坑を解雇するに及んで追出策が露骨となつた爲め殺意を生じ舊盆の十六日平町三丁目平野井商店より八圓餘の短刀を求めて時機を計り去る二十日午後二時半一悶着の上駐在所に出掛け

### 養父の

背後から同短刀を揮つて突刺し即死せしめたのであると因に同人は自殺を圖つてカルモチンを嚥下したが手當ての結果生命に別條なく昨日藤原豫審判事の勾留状執行されて平刑務所に收監された尙ほ同人は福島炭坑坑夫

### 稼業中

炭坑相撲部の大關で同炭坑切つての力持ちであり本年の徴兵検査には甲種に合格した男である

者は會長山崎清三氏外十餘名にて當日係員其他の打合せを行つた

### 市川検事出張

既報来る二十八日午前八時より平商道場に於て開催される帝國在郷軍人會石城聯合分會第五回武術大會の評議員會は午九時より平商業學校に於て開かれたが出席

### 貯金する

### 主人の金を拐帶

### 奉公人が雲隠れ

石城郡湯本町字榮田雜貨商吉田章一方使用人茨城縣新治郡土浦町西町生れ小林英夫(一)は去る廿七日主人の金三十圓を貯金すべく命ぜられたが金を拐帶行衛を誨したので主人より平署に同人の取押方を願出た

### 平署道場で

### 剣道講習

### 武徳會が主催

石城武徳會では来る廿五日より七日迄の三日間平署道場に於いて會員の爲め剣道講習會を催す事になつた

### 四倉新舞子間に

### 自動車道新設

石城郡四倉町消防組第三部では同地海岸から新舞子に向ふ遊覽客の便を圖り同町より新舞子夏井川附近に通ずる松原に自動車道路を新設すべく近く期成同盟會を組織すると

### 泉村青訓行軍

石城郡泉村青年訓練所生四十六名は昨日志賀中尉指導の下に新舞子へ對執行軍を試み同地に一泊したが本日草野發午後六時二十分にて歸途



明日は北東の風 晴一時驟雨もあります

### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
小史劇「白虎隊」仙臺兒童史劇會  
後六、三〇 夏期英語講座(十七)毛利八十太郎  
後七、三〇 産業ニュース  
後八、〇〇 箏曲一明治松竹梅二比良 横田松島外  
後八、三〇 落語「料理屋の放送」桂小文治  
後九、〇〇 新内「戀娘昔に着くと

### 明日の部

前六、三〇 家庭教育講座(七)「特殊兒童の教育即ち天才兒と劣等兒の教育に就て」奈良女子師範學校教授 西本三十二  
前七、〇〇 エスベラント

### 性源寺住職

### 赤井正勝師に

平町長橋町性源寺前任職渡邊則成氏病歿後住職缺員中の處同寺院の改築工事も進行したので本日曹洞宗管長秋野孝道氏より新任職として赤井正勝師を任する旨町役場に届出があつた

### 赤井祭禮警備

石城郡小川村消防組では廿五日午後一時より組合長方に於いて卅一日に執行される關伽井嶽祭禮の小川方部登山道の警備に就いて協議を行ふと

### 親切とかしに詐欺

### 飲食店の女將を騙る

双葉郡富岡町字小良ヶ濱生双葉郡富岡町字折木居住魚行商人佐藤茂(一)は肩書地の隣家高橋政吉の娘菊地ツルが平町南町で飲食店龜屋を經營して居る事を知り同人の實父に依頼されたといふので去る五日に五圓五十錢廿日には二圓と二回に亘つて詐欺した事發覺昨廿一日ツル方に立寄つた處を平署員に取押へられた

### 下小川の村道

### 縣費改修陳情

石城郡下小川村大字開場地内より赤井村字三島を経て小川驛に通ずる村道は一方平窪村及び大野村に通ずる道路の分岐點となつて居り同地方開發に最も重大な道路なので從來是が改修は上下小川並に赤井の兩村で行つて居るが最近に於ける農

### 講座(七)日本エンペラ

進藤靜太郎  
前七、三〇 夏期兒童講座「拾双銃をやつと擔いで二本松少年隊の戦死」福島縣師範學校教授 木口昇  
前九、一〇 料理献立「焼茄子のマヨネーズ和へ」一戸靜涯  
前一〇、三〇 家庭講座「新しき舞踊」七高田せし子  
後〇、〇五 俳諧「山形大津繪外」高橋伊勢治外  
後二、〇〇 婦人講座「繪を描いてと望む子供の爲

### に(二)長崎拔天

後六、〇〇 子供の時間 童話劇「九人のくろんぼ」胡蝶座  
後六、三〇 夏期英語講座(十八)毛利八十太郎  
後七、三〇 講演「滿洲國承認問題と九ヶ國條約」京都帝大教授 法學博士 末廣重雄  
後八、〇〇 義太夫「菅原 義授手習鑑」淨瑠璃竹本 東廣三味豊澤仙平  
後八、三〇 ラヂオドラマ「上陸第一歩」水谷八重子外  
後九、三一 滿洲より

### 看護婦の表彰

平看 護婦會看護婦牛澤さうさんは高久村隔離病舎に七十餘日間日夜盡瘁した勤勞に依つて鈴木村長より金一封を添えて表彰さる

### 産米鑑定研究

平穀 物検査支所では本日午前九時より同所に四倉、勿來の兩出張員を招集、産米の鑑定並に事務の研究會を催した

### 平職業紹介所報告

回求人部  
△兒守 十七才 給料面談(平町某)  
△女中 十八才 尋卒 給料面談(平町某)  
△自轉車工見習 二十以下

### 回求職の部

△店員 十八才 佑賢卒 給料面談(平町某)  
△土工 二七才 尋卒 給料面談(平町某)  
△雜役 二十三才 尋卒 給料面談(好間村某)  
△工事監督 二十八才 早稲田工科卒業 給料面談(好間村某)  
△指物工 二十才 尋四修 給料面談(好間村某)

### 平町人事

△立町七齋藤勝治氏二女コウ  
△九品寺前三三若松増平氏 長男莊平

耳鼻咽喉科専門  
**大和田醫院**  
平町南町 電一七〇

# 慕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演  
近藤 紫 雲 畫

第三百一十一席 真庭念流の達人櫻井五助

周作試合を避く

千葉周作は秋山要介と試合を約して下座敷に引取つたが、門人の渥見十藏は明日の勝負を心に懸け

十「先生、秋山は曲者ですから油断はなりませんよ」

周「左様、彼は放蕩者であるが技倆は出来るナ」

十「明日の試合はどういふ事になりますか、大いに心痛いたして居ります」

周「心を痛めるには及ばぬ勝か負けるかこの二ツの中の一ツに結着いたす、然し明日は勝負はあるまい」

十「へエー、勝負は無いと申しますと相打になさいませうか」

周「相打にする事も出さまい、それは技倆に格段相違あらば向ふに小手を取らせ同時に獲物を打落し勝負は無しに致す事も出来るが秋山は先づ名人、然らば此方の註文通りには参るまい」

十「それでも先生は明日の試合、勝負無しだと仰せられますナ」

周「それは勝負はつくまい何故勝負はつかぬと云ふに夜の明けると同時に俺は出立致す、相手が居らずば如何に秋山が騒ぐとも勝負を

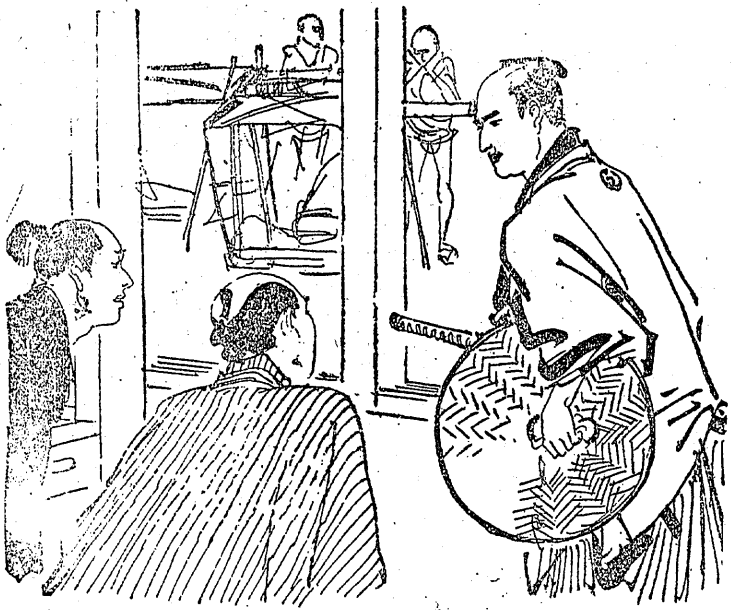
つける事はなるまい」

十「成程、それでは先生は秋山との試合を避けませうか」

周「左様、試合は致さぬ」

十「卑怯者と申すでございませう」

周「そんな事も申すであらうが、俺は神田お玉ヶ池に道場を開き居る、その道場に参つたならば試合も致すであらう、殊に明日は松平安藝守殿の稽古の當日である、少しも早く江戸に戻らねばならぬ、俺も多少世に名を知られたものだ、それ



が旅宿の庭にてし合をいたしたとあつては体面を汚す秋山に恐れて試合を避けるわけではない、道場に参れば立合ふ、憊ういふわけだ俺は早く出立いたすから貴様は秋山に會つて師は急用出来いたしたに就て立戻つた、此後江戸へお出になつた節は道場にお訪ね下さい憊う申して置け」

十「へい、然しあの通りの無法者でございますから此事を聞きましたならば立腹いたすでございませう」

周「それは腹を立つてあらう、茲で秋山が立腹いたせ

ナ、憎い奴だと云つてわたくしを斬るかとも思はれませう」

周「それはその位の事はいたすであらう、秋山が斬ると申したら斬られろ」

十「それは困ります」

周「様子をみてこれは危いと思つたならば逃げてしまへ」

十「それではさういふ事にいたしませう」

千葉は秋山の相手にならぬつもりと睡入りすると夜が明けた、臥床を離れ洗面をいたし座敷に戻り茶を喫み食時をして

周「それでは渥見俺は出立いたす、秋山に宜しく申して呉れ」

十「お大事にお出遊ばせ、然し先生、残されたわたくしは辛い役でございますナ何しろ相手は氣狂ひのやうな人物で、それで技倆が出来て居て人を斬るを樂しむといふ先づ氣狂ひにしては最も質の悪い人物でございませう」

周「弱い奴だナ、昨夜も申した通り危険だと見たならば逃げてしまへ、後は宜しく頼むぞ」

支度して店へ出て来た、スルと番頭が

番「何方へお出になりませう」

周「江戸へ戻る」

番「へエー、今朝秋山先生と試合をなさる事になつて居りますか」

周「さうだ、試合をするとは申したが、先刻唇を見た處が今日は凶日だ、そこで

江戸に歸る、俺の代りに門人を殘して置くから秋山氏が立腹いたしたならば俺の代理として門人を打据えて怒りを散せよと斯様申してくれ、イヤ厄介になつた、又参るであらう」

と憊う云ひ置いて笠を冠り熊谷の宿を出た、此方は秋山要介、千葉が出て行く間もなく目を覺した

要「あ、昨夜は甚く酔つたコソ丈右衛門、起きろ、今日は千葉と試合を致さねばならぬ、ドレ身を清めて」

と湯殿に参つた、含嗽を致し手水を遣ひ千葉の部屋に來ると渥見十藏が只一人其處に居ます。

御用命印刷物の總代理  
常磐警日印刷株式會社  
電話三六〇番

お醤油は ヤマフル

醤油味噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品

鹽屋  
金山崎合名會社  
福島縣平町電話營業部二〇醸造工場  
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

中村齒科醫院  
平町鍛冶町七

井坂醫院  
平町田町 電話五五九番

專門  
婦人科  
花柳病科

◎入院應需

花柳病專門  
木村外科醫院  
平町五丁目橋際  
電話三〇九番

御料鹽豚  
田町 三二三屋  
電話三二三番

入院自炊の便あり